

治療は信頼あつてこそ

ワッシーが学生の頃、「やがて、

医者を受難時代が来る」と予言した先輩がいた。まさか、ここまでひどくなるとは思わなかっただろう

62歳のTさん。血圧が高い。MR I（磁気共鳴画像装置）の検査では、脳の血管にキズが見える。高血圧の治療をしなければ、やがて脳出血か脳梗塞を起こすだろう。塩辛いものが好きで運動はイヤだと言うので、ワッシーもんでいる降圧剤を処方した。もちろん血圧は正常になった。

医者もつらいよ

副作用などない。そのTさんが、「セッセ。週刊誌で読んだけど、血圧の薬はもう要らない」と一方的に言うのである。これで2人目だ。最初のひとは、「降圧剤は副作用があるだけで効果はない」と、ワケが分からなかった。ワッシーより週刊誌のほうが信用できるのかと、さびしくなる。

医療事故が多発し、2000年を境に、医者はマスコミにたたかれ、ボロボロだ。さらに、最近では、週刊誌が医療批判を繰り返している。そのタイトルが凄（こ）いこと。「ダメされるな！ 医者に出されてものみ続けられない薬」とか、「一度のんだらやめられない危ない薬」などがある。よく使われる薬の商品名を並べ、稀（まれ）にしか起きない副作用を強調する。患者さんがタイトルにつられて本文を読めば、自分ののんでいる薬が、さしたる効果もないのにひど



「素人判断は危険」

副作用がある。しかも、それは誰にでも起きると言わんばかりだ。「薬はのまない」と決心する患者さんがいても不思議ではない。

医療者への患者さんの信頼がなければ治療はうまくいかない。その信頼を得るのが難しい時代になったのだ。と、嘆いても始まらない。「医者信頼してほしい」とも、言わない。ただ、「素人判断で薬を勝手に中断することほど危険なことはない。どうするか迷ったら、必ず医者に相談してほしい」と言い続ける。

（石黒修三 しいしげるクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住）